

其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ
得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定
ム

四月八日

小學校設備準則ヲ定ム

文部省令

文部省令第二號

明治二十三年十月勅令第二百十五号小學校令第十九
條ニ基キ小學校設備準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十四年四月八日

文部大臣 芳川 顯正

小學校設備準則

第一條 校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開路乾爽ナ
ルヲ要ス

校地ハ喧鬧ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道

徳上嫌忌々ヘキ場所、停滯セル池水其他凡テ惡臭

アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所

校正 藤尾杉村



ニ接近スヘカラス

校地ヲ擇フニ方リ衛生上ノ利害明ナラザルトキハ醫師ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第三條 校舎ニハ

天皇陛下及

皇后陛下ノ御影並教育ニ関スル勅語ノ謄本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條 校舎ハ成ルヘク平屋造ナルヲ要ス若シニ

階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ

置クヲ要ス

校舎ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ為シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クル

ヲ要ス

第四條 各教室ノ入サハ其内ニ入ルヘキ机並

坐席ノ數、入り及配置方ニ應ジテ之ヲ定

メ生徒四人ニ付九一坪ヨリ小ナルヘカラス

各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生

徒ヲ容ルヘヨリ大ナルヘカラス

第五條 校舎ハ生徒ノ晴傘、雨衣、足駄等ヲ置クヘキ

場所ヲ備フルヲ要ス

校舎ハ成ルヘク講堂、物置等ヲ備フルヲ

要ス

裁縫ノ科目ヲ設ケル小學校ハ男サヲ區別シテ教

授セサル場合ニ於テハ該科目ノ為成ルヘク特別

ノ教室ヲ其校舍ニ備フルヲ要ス

手工又ハ工科ヲ設クル小學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ為特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス

大ナル小學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クガ為成ルヘク特別ノ場所ヲ備フルヲ要ス

第六條 體操場ハ成ルヘク校舍ニ傍リテ備フルヲ要ス

第七條 農業練習場ハ成ルヘク校舍ニ遠サカラカ
ルヲ要ス

第八條 校舍ニハ塩井戸又ハ水道等ニ依リテ飲料
水ヲ供給スルノ備アルヲ要ス

第九條 便所ハ校外ニ於テ男セツ區別シテ備
ルヲ要ス

第十條 校舍ニ傍リテ成ルヘク學校長若クハ首席
教員ノ住居及菜園ヲ設クルヲ要ス

第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トス

甲種ノ校具ハ專ラ教授ノ用ニ充ツル器具トシ尋
常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、教員用教科書、學校
所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、指數
器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、庶物指教用具
ヲ備フルヲ常例トシ高等小學校ニ於テハ教員用
教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、萬國地圖、地
球儀、定木、兩脚規、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、
博物標本、理化器械、圖書、手本、圖畫用具、裁縫用具、
樂器、體操器械ヲ備フルヲ常例トシ其他ハ學校ノ
等位、學級ノ編制又ハ教科若クハ教科目ノ種類ニ

應シテ備フヘキモノトス

乙種ノ教具ハ國旗、門札、生徒用及教員用ノ机及腰掛
(腰掛ヲ用ル學校ニ限リ)、時計、諸帳簿、硯箱並附屬品、紙、
書籍、棚戸棚、日用品其他學校ニ備付クレタ必要ト
スル物件ニシテ甲種ノ教具ニ属セサルモノトス

第十三條 生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生
上ニ害ナカラシメ及生徒ノ監視上等ニ便利ナラ
シムルヲ要ス

第十三條 第二條ニ掲クル場所、校舍ノ内部外部ノ
壁、校舍ノ床、階梯、出入口、廊下、屋根、教室天井、戸、梁窓、
便所、體操場、農業練習場、教員住居及升戸等ノ構造
並教室天井ノ高さ、教室ノ幅及長さ、制限、暖室、通
風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ

地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十四條 教具ノ構造、排置等ニ關スル必要ノ事項
ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スル
ヲ要ス

第十五條 校舍、校地、教具等ノ掃除及保存ニ關スル
必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之
ヲ規定スルヲ要ス

第十六條 設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校
具ノ新調等ニ際スルニアラサルハ適用シ難キモ
ノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス但猶
豫スヘカラス事情アル場合ニ於テハ此限ニア
ラス